

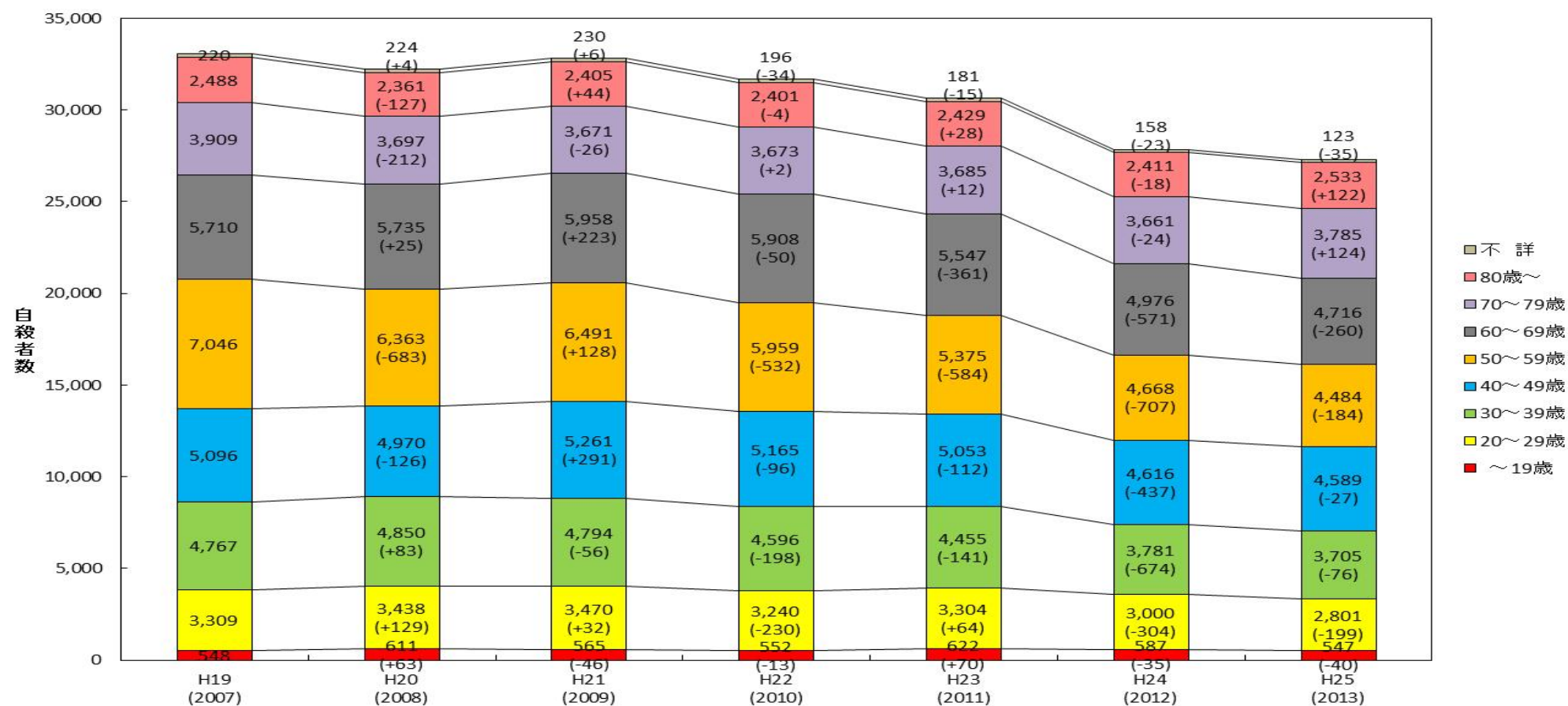
年齢階級別自殺者数の年次推移

○30歳代は5年連続、40歳代、50歳代及び60歳代は4年連続、20歳未満及び20歳代は2年連続で減少した。

○70歳代及び80歳以上は増加に転じた。

○平成25年は24年と比較して、60歳代が最も大きく減少し、260人の減少となった。

(単位:人)



注1)平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。

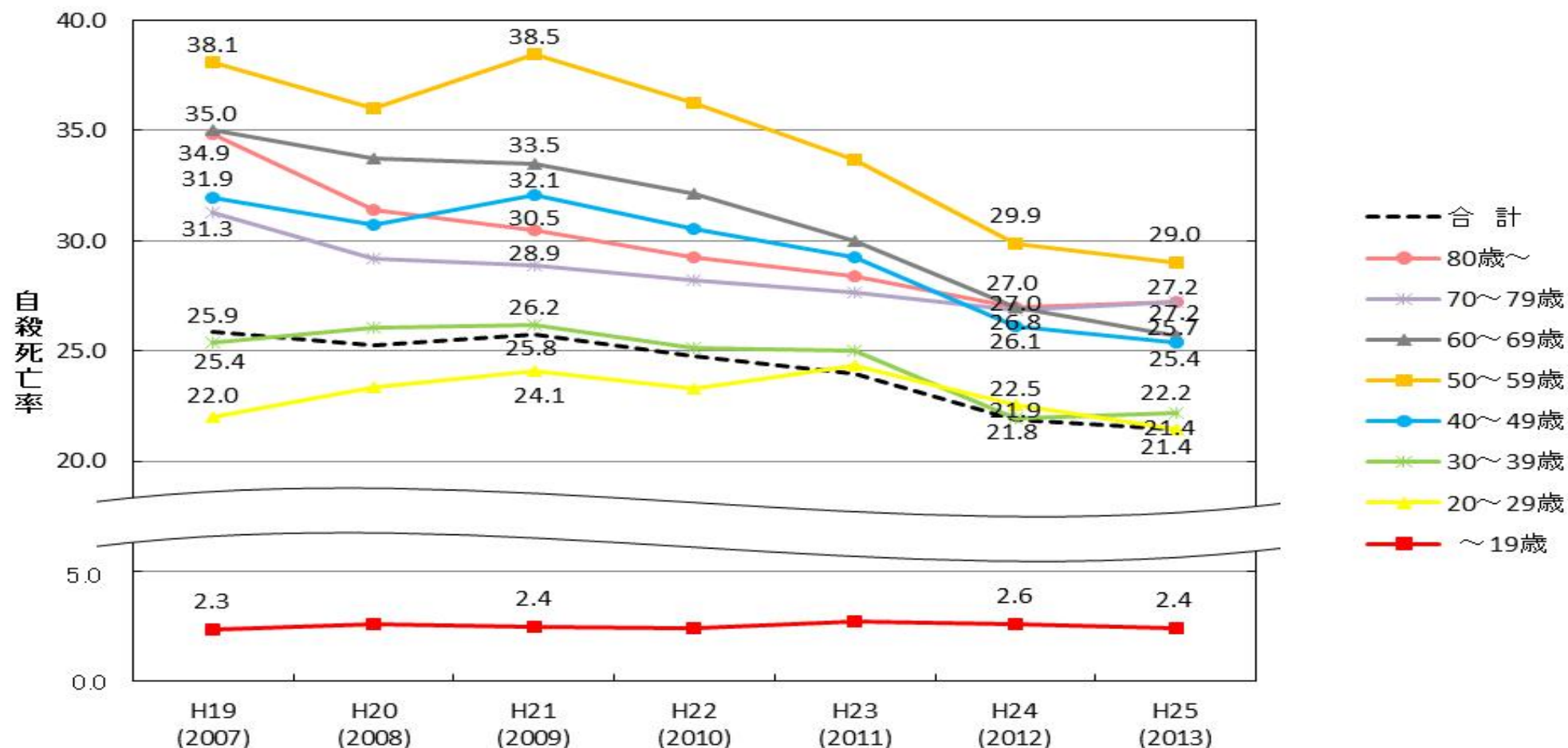
注2)グラフ中の値は、上段が自殺者数、下段が対前年差である。

資料:警察庁自殺統計原票データより内閣府作成

年齢階級別自殺死亡率の年次推移

○60歳代は6年連続、40歳代及び50歳代は4年連続、20歳未満及び20歳代は2年連続で低下した。

○30歳代、70歳代及び80歳以上は上昇に転じた。



注)平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。

資料:警察庁自殺統計原票データ、総務省「人口推計」及び「平成22年国勢調査」より内閣府作成

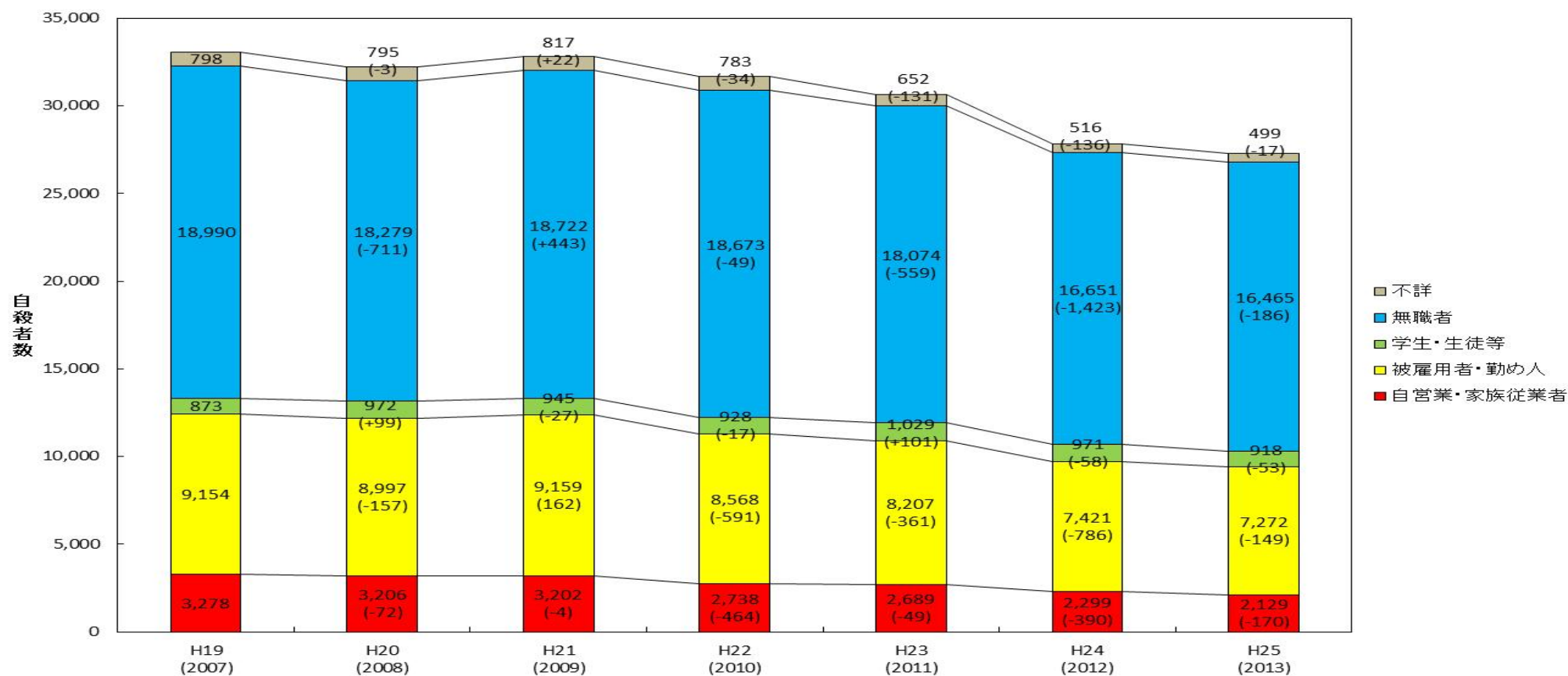
職業別自殺者数の年次推移

○全ての職業において前年から減少した。

○自営業・家族従業者は6年連続、被雇用者・勤め人及び無職者は4年連続、学生・生徒等は2年連続で減少した。

○平成25年は24年と比較して、無職者が最も大きく減少し、186人の減少となった。

(単位:人)



注1)平成19年に自殺統計原票を改正し、職業の分類が改められた。

注2)グラフ中の値は、上段が自殺者数、下段が対前年差である。

資料:警察庁自殺統計原票データより内閣府作成

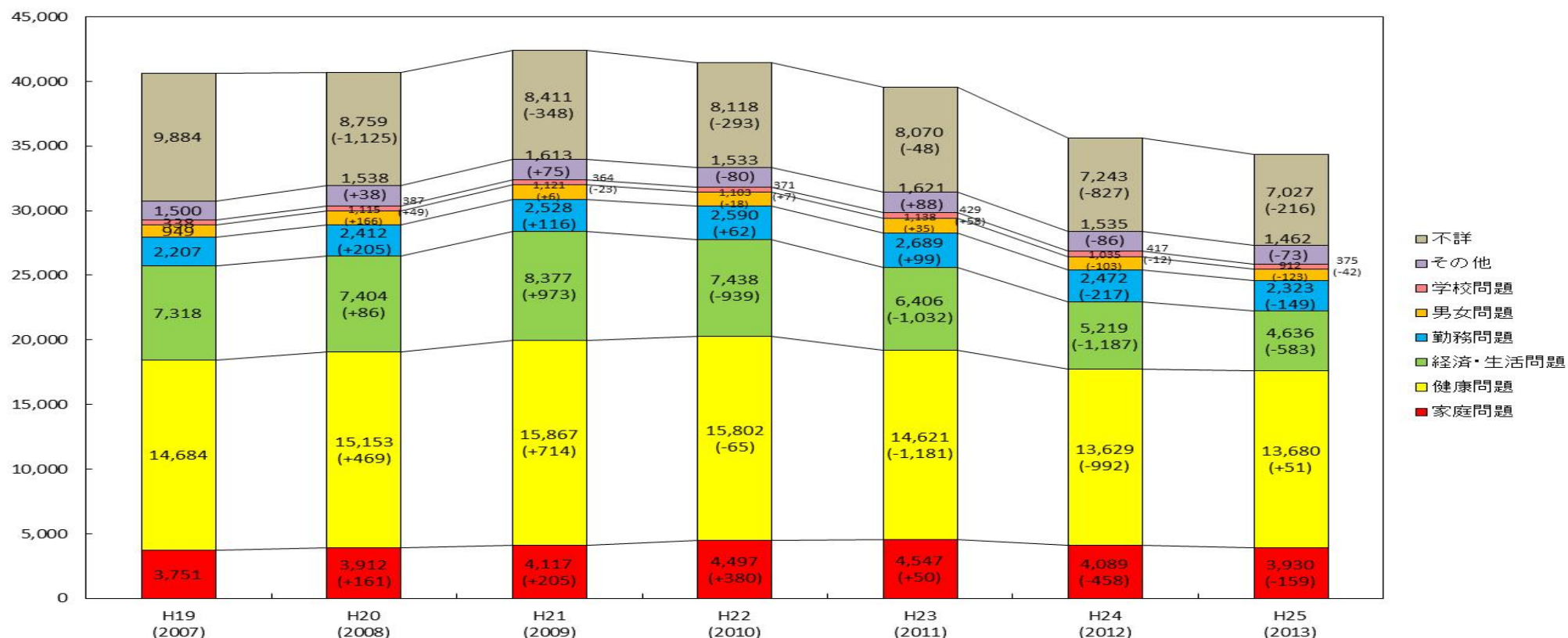
自殺の原因・動機別自殺者数の年次推移

○経済・生活問題は4年連続、家庭問題、勤務問題、男女問題、学校問題及びその他は2年連続で減少した。

○健康問題は増加に転じた。

○平成25年は24年と比較して、経済・生活問題が最も大きく減少し、583人の減少となった。

(単位:人)



注1) 平成19年に自殺統計原票を改正し、遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上することとした。

注2) グラフ中の値は、上段が自殺者数、下段が対前年差である。

資料: 警察庁自殺統計原票データより内閣府作成